10周年記念拡大版

なごや生きもの一斉調査 2021

テントウムシ編

調査結果報告書

実 施 日 2021年9月23日(木)・24日(金)・25日(土)・26日(日)

調査場所 名古屋市内外の85地点

主 催 なごビオ
(なごや生物多様性保全活動協議会)

協 力 公益財団法人
名古屋市みどりの協会

調査監修・執筆 戸田尚希(名城大学昆虫学研究室研究員／名古屋昆虫同好会)
岩田圭二(名古屋昆虫同好会)
櫻谷保之(NPO法人 なごや東山の森づくりの会)

目　次

1. 概要 …… 1
- 1−1　目的
- 1−2　実施体制
- 1−3　ワーキンググループ

2. 実施内容 …… 2
- 2−1　調査日時
- 2−2　調査地点
- 2−3　参加団体
- 2−4　参加者数
- 2−5　調査の流れ
- 2−6　調査方法

3. 調査結果と考察 …… 8
- 3−1　調査対象
- 3−2　調査方法と生息環境の分類
- 3−3−1　調査結果
- 3−3−2　生息環境別の分布
- 3−3−3　ナミテントウの斑紋型
- 3−3−4　種別解説
- 3−4　テントウムシの生息環境の保全

4. 同定資料 …… 24

5. 調査後のアンケート …… 26
- 5−1　調査に対する満足度
- 5−2　参加者について
- 5−3　参加者の声 ―楽しかったこと、面白かったこと―

6. 活動アルバム …… 28

表紙写真　撮影：櫻谷保之
本文写真（テントウムシ）　撮影：戸田尚希（P8.9.13.15~22）／櫻谷保之（P.4.6.23.27）／星克巳（P.4）

1. 概要

1−1　目的

なごビオ（なごや生物多様性保全活動協議会）は、なごやに生息する生物及びその環境の継続的な調査を行い、生物多様性の現状を把握するとともに、外来生物の防除など身近な自然の保全を実践することを目的として、平成23年5月15日に設立されました。令和4年3月末現在、67の会員（団体会員40、個人会員26および名古屋市）により構成されています。

なごビオでは、その活動の一環として、1年に1回、なごや生きもの一斉調査を実施しています。令和3年度はテントウムシを対象として一斉調査を行いました。テントウムシを調査する意義は次の3つです。

（1）　テントウムシを身近な公園等で調べることで、地元の自然環境に興味をもってもらい、より自然に対して関心を持ってもらう機会となります。また、同じ場所でも、環境が異なるところに色々な種類のテントウムシが生息していることを知っていただき、生物多様性を知ってもらうきっかけとなります。

（2）　テントウムシは肉食種、植物食種、菌食種などの種類が見られます。名古屋市内やその周辺地域を調べることで、その多様性に触れ、いろいろな生物が関連して生態系をつくっていることに関心を持ってもらいます。

（3）　名古屋市内に生息するテントウムシは、現在40種程度が記録されていますが、周辺地域に生息していながらまだ市内で見つかっていない種も多く、今回の調査で新たに見つかる可能性があります。また、近年は外来種も入ってきており、その分布状況の解明も期待できます。

1−2　実施体制

なごビオは令和3年5月に設立10周年を迎えました。そこで、今回の一斉調査は10周年記念事業の一つと位置づけ、「拡大版」として実施しました。例年どおり、なごビオ会員がリーダーとなって名古屋市内の公園等で調査を行うことに加え、他都市の保全団体等にも調査に参加していただき、市外を含め従来よりも広範囲で調査しました。

今回の一斉調査は拡大版として以下の体制で実施しました。

【　主　　催　】なごビオ（事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内）
【　協　　力　】公益財団法人 名古屋市みどりの協会
【　連携団体　】名古屋市理科教育研究会、名古屋経済大学市邨高校、NPO法人 海上の森の会、
NPO法人 もりの学舎自然学校、二村山豊かな里山づくりの会、
公益財団法人 愛知県都市整備協会、岩間造園㈱、一般財団法人 公園財団、
公益財団法人 日本野鳥の会、NPO法人 犬山里山学研究所、
名古屋産業大学長谷川ゼミ
【調査監修・執筆】戸田尚希（名城大学昆虫学研究室研究員／名古屋昆虫同好会）
岩田圭二（名古屋昆虫同好会）
櫻谷保之（NPO法人 なごや東山の森づくりの会）

1−3　ワーキンググループ

今回の一斉調査ではなごビオの幹事、テントウムシの専門家、事務局で構成するワーキンググループを設置し、調査場所の選定や調査方法の検討を行うとともに、調査結果をまとめた報告書を作成しました。

【構成メンバー】

長谷川泰洋（名古屋産業大学現代ビジネス学部大学院環境マネジメント研究科長谷川泰洋研究室）
梅本　洋子（副会長／花水緑の会）
石原　則義（幹事／愛知守山自然の会）
戸田　尚希（名城大学昆虫学研究室研究員／名古屋昆虫同好会）
岩田　圭二（名古屋昆虫同好会）
櫻谷　保之（NPO法人 なごや東山の森づくりの会）

2. 実施内容

2−1　調査日時

【日程】令和3年9月23日（木）、24日（金）、25日（土）、26日（日）を中心に前後約1か月間
【時間】10:00〜16:00の間の2時間程度

2−2　調査地点

名古屋市内73地点　名古屋市外12地点　計85地点（p3〜4参照）

2−3　参加団体

今回の一斉調査は拡大版として、以下の団体にも参加いただきました。

（1）名古屋市理科教育研究会（名理会）
　名古屋市理科教育研究会は名古屋市立の小中学校・幼稚園等に在籍する理科同好の職員で組織される研究会です。その生物部の先生方に参加をお願いし、児童や生徒とともに学校の校庭や学校の近くの公園等で調査していただきました。

（2）高校の生物部等（ユース）
　高校の生物部等で、なごや生物多様性センターが主催するセンターまつりに参加した高校や、なごビオの助成金の交付を受けた高校などに参加をお願いし、学校の校庭で調査していただきました。

（3）他都市団体
　名古屋市周辺の市で、なごビオと同様に自然環境保全に取り組む団体に参加をお願いし、団体が日頃活動しているフィールドで調査していただきました。

（4）会員、市民生きもの調査員等（個人調査）
　なごビオ会員や市民生きもの調査員などの皆さんに参加をお願いし、ご自宅近くの公園等で調査していただきました。

表1　調査地点一覧

【なごビオ】

地点No.	区	調査地名	リーダー	調査日
1	千種	茶屋ヶ坂公園	石樽純子	9/24
2	千種	千種公園	伴知幾	9/24
3	千種	東山の森(へいわの森)	田畑恭子	9/25
4	千種	東山の森(くらしの森)	井上昌次	9/25
5	千種	東山の森(ふれあいの森)	今尾由美子	9/23
6	千種	東山の森(いのちの森) ⇒雨天中止	(滝田久憲)	
7	千種	東山の森(うるおいの森)	山田祥夫	9/23
8	千種	城山八幡宮	舩橋泰彦	9/24
9	千種	名古屋大学東山キャンパス ⇒中止	(伴知幾)	
10	東	矢田川橋緑地	脇田剛	9/25
11	東	千代田橋緑地	櫻井玲子	9/23
12	東	徳川園	堀田恭史	9/24
13	北	名城公園	佐藤裕美子 岩田圭二	9/23
14	西	庄内緑地	鶴田正治	9/25
15	中村	大正橋緑地	宇野総一	9/23
16	中	久屋大通庭園	上田理香	9/23
17	昭和	鶴舞公園	金剛和香	9/23
18	昭和	興正寺公園	眞弓浩二	9/25
19	瑞穂	東山荘公園	大矢晃	9/23
20	熱田	神宮東公園	伴知幾	9/23
21	熱田	熱田神宮	山本雅人	9/25
22	中川	荒子公園	岩田圭二	9/28
23	港	戸田川緑地	山本佑紀	9/26
24	港	荒子川公園	細江初奈	9/24
25	港	稲永公園	熊澤慶伯	9/23
26	南	呼続公園(南部)	浅井昭枝	9/23
27	南	呼続公園(北部)	澤田宗一郎	9/25
28	南	笠寺公園	近藤記巳子	9/23
29	南	大江川緑地	柘植実	9/23
30	守山	東谷山フルーツパーク	松原裕隆	9/24
31	守山	小幡緑地(本園)	石原則義	9/25
32	守山	小幡緑地(西園)	石原則義	9/24
33	守山	八竜緑地	藤原純子	9/23
34	守山	翠松園緑地	日下部康彦	9/25
35	緑	新海池公園	研谷厚	9/23
36	緑	みどりが丘公園	加藤敦子	9/24
37	緑	大高緑地(管理事務所周辺)	大矢芳樹	9/24
38	緑	大高緑地(花木園周辺)	谷幹雄	9/25
39	名東	明徳公園	布目均	9/26
40	名東	猪高緑地(塚ノ杁池周辺)	安井弘	9/23
41	名東	猪高緑地(すり鉢池周辺)	髙木和彦	9/25
42	名東	猪高緑地(花木園～親鸞山南)	井土清司	9/25
43	名東	牧野ヶ池緑地	巾賢治	9/24
44	天白	天白川緑道(天白橋～寄鷺橋)	石川登志子	9/24
45	天白	相生山緑地	近藤記巳子	9/25
46	天白	東山公園テニスセンター	御厨彩可	9/24
47	天白	天白公園(東部)	上田雅子	9/23
48	天白	天白公園(西部) ⇒雨天中止	(黒宮茂)	
49	天白	荒池緑地	黒宮茂	9/23
(追加調査)				
50	中村	米野公園	センター職員	9/29
51	中村	名古屋駅	センター職員	9/29
52	中	白川公園	センター職員	9/30
53	中	松原公園	センター職員	9/30
54	中川	松葉公園	センター職員	9/29
500	中	伏見通	戸田尚希	9/17
501	天白	なごや生物多様性センター	岩田圭二	9/13
502	天白	天白区高島1丁目	岩田圭二	10/16
503 505	天白	島田緑地	岩田圭二	10/16 10/20
504	日進市	天白川(日進市赤池町下田)	戸田尚希	10/15
506	天白	天白川であい公園	戸田尚希	10/15

連携団体

【名理会】

地点No.	区	調査地名	リーダー	調査日
101	千種	見付小学校	山田啓太	9/21
102	北	北陵中学校	宇佐美宏幸	9/15
103		東志賀公園		9/29
104	西	南押切小学校	石田智紀	9/19
105	港	福田小学校、福田公園	澤田真吾	9/24
106	港	土古公園(川中小学校)	磯貝彰宏	9/25
107	南	笠寺小学校	横井宏明	9/24
108	守山	西城小学校	小林哲	9/25
109	緑	鳴海小学校	川野祐二	9/25
110	天白	天白渓下池公園(大坪小学校)	浅野太介	9/24

【ユース】

地点No.	区	調査地名	リーダー	調査日
201	千種	名古屋経済大学市邨高校	佐藤豊	9/15･21

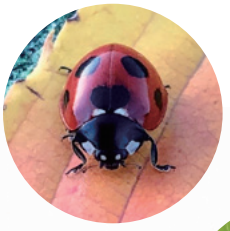
【他都市団体】

地点No.	市	調査地名	リーダー	調査日
301	瀬戸市	海上の森	石川明博	9/26
302	長久手市	モリコロパーク	水谷央	9/28
303	豊明市	二村山	浅野守彦	9/23
304	大府市	あいち健康の森公園	大野友豪	10/9
305	小牧市	尾張広域緑道	三輪政伸	9/19
306	稲沢市	サリオパーク祖父江	辻泰広	9/28
307	豊田市	豊田市自然観察の森	大熊千晶	9/20
308	犬山市	犬山里山学センター	林進	9/22
309	尾張旭市	名産大近くの寺田の里山	長谷川泰洋	9/28

【個人調査】

地点No.	市･区	調査地名	リーダー	調査日
401	春日井市	名城大付属農場	山腰美帆	9/27
402	中村	稲葉地公園	桶本侑加	9/19
403	熱田	白鳥公園	白岩一隼	9/23
404	中川	庄内川河川敷(中川区打出)	安居義高	9/19
405	一宮市	木曽川緑地公園	田邊大佑	9/20
406	天白	高島公園	稲熊大城	9/19･20
407	瑞穂	瑞穂グラウンド	鵜飼普	9/25
408	瑞穂	瑞穂公園	鵜飼普	9/29

(注)9月26日(日)は雨天のため、6：東山の森(いのちの森)、48：天白公園(西部)は調査を中止しました。23：戸田川緑地、301：海上の森は当日、22：荒子公園、302：モリコロパーク、304：あいち健康の森公園は後日、スタッフのみで調査しました。



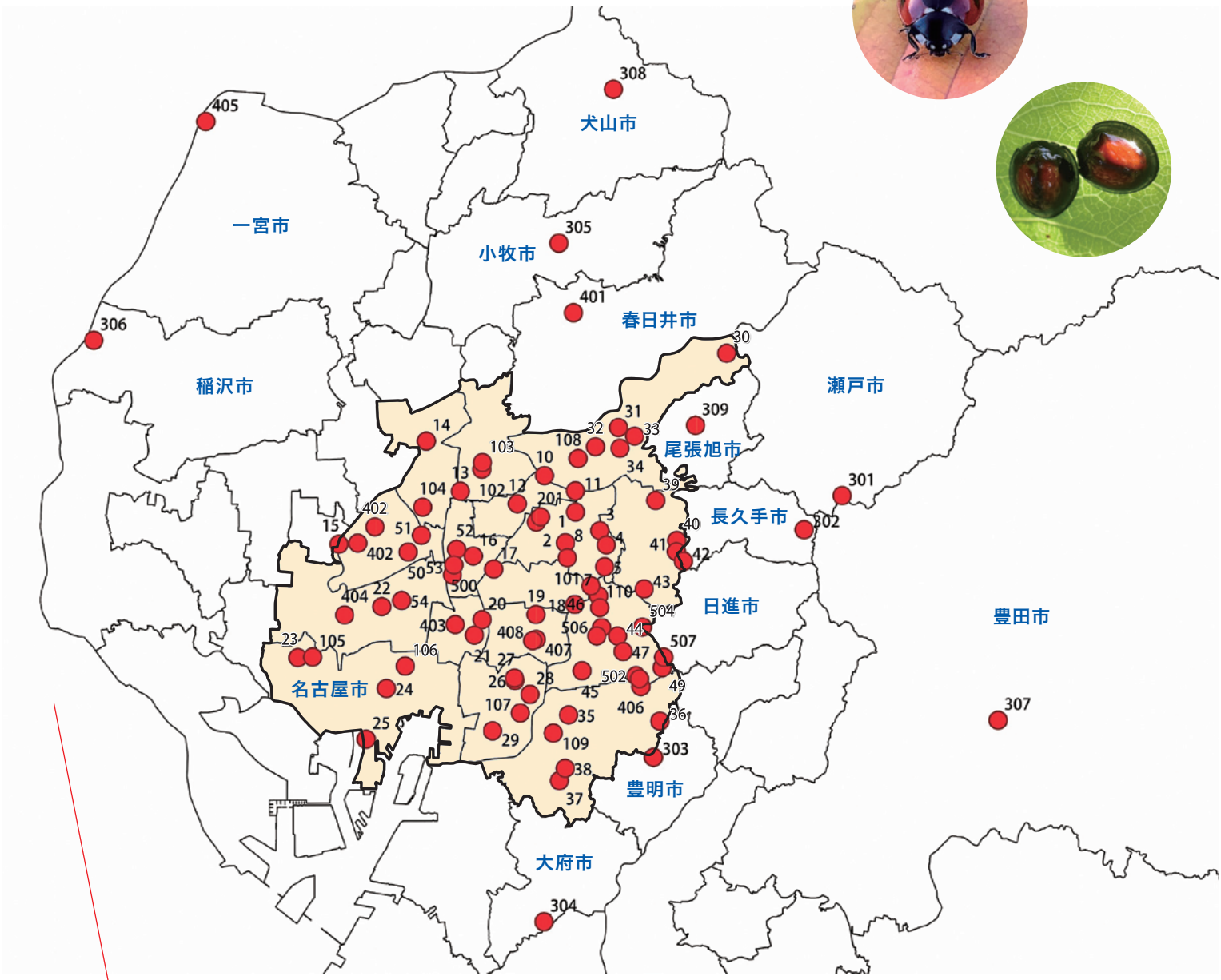

犬山市
一宮市
小牧市
春日井市
稲沢市
瀬戸市
尾張旭市
長久手市
日進市
豊田市
名古屋市
豊明市
大府市
調査地点
市区町村境界

図1　調査地点位置図

2−4　参加者数

公募により参加していただいた市民の他、連携団体からの参加を含め延べ991人に参加していただきました。連携団体からの参加者は以下のとおりです。

（1）名理会　　9校　385人
（2）ユース　　1校　 72人
（3）他都市団体　9団体　77人
（4）個人調査　　8組　 25人

2−5　一斉調査の流れ

（1）講習会

一斉調査では毎回、各調査地のリーダー・サブリーダーなどを対象とし、調査目的や調査方法を説明した後、専門家（講師）が調査対象について解説する講習会を実施しています。今回は名理会の参加者を対象とした実地演習と、なごビオのリーダー等を対象としたリーダー講習会に分けて、以下のとおり実施しました。

●名理会の実地演習

【日　　時】8月21日（土）9：30〜11：30
【場　　所】千種スポーツセンター、東山の森（くらしの森）
【参 加 人 数】14人
【講　　師】戸田尚希（名城大学昆虫学研究室研究員／名古屋昆虫同好会）
岩田圭二（名古屋昆虫同好会）
櫻谷保之（なごや東山の森づくりの会）

【実地演習の内容】

9：30〜 9：45　事務局（なごや生物多様性センター職員）から調査方法等を説明
9：45〜10：15　講師によるテントウムシに関する講義
東山の森（くらしの森）へ移動
10：30〜11：30　テントウムシの採集、同定の演習

図2　実地演習の様子（講義）

図3　実地演習の様子（採集）

●なごビオのリーダー講習会

【日　　時】① 9月12日(日)　10:00～12:00
② 9月13日(月)　10:00～12:00
③ 9月14日(火)　10:00～12:00
※リーダー(またはサブリーダー)は上記のいずれかに出席。
【場　　所】なごや生物多様性センター
【参 加 人 数】のべ76人
※ 連携団体の参加者のうちの希望者にも受講していただきました
センターでの受講以外にYouTubeの配信でも受講してもらいました
【講　　師】戸田尚希(名城大学昆虫学研究室研究員／名古屋昆虫同好会)
岩田圭二(名古屋昆虫同好会)
櫻谷保之(なごや東山の森づくりの会)
【講習の内容】10:00～10:40　事務局(なごや生物多様性センター職員)から
調査方法等を説明
10:40～12:00　講師によるテントウムシに関する講義

図4　講習会の様子

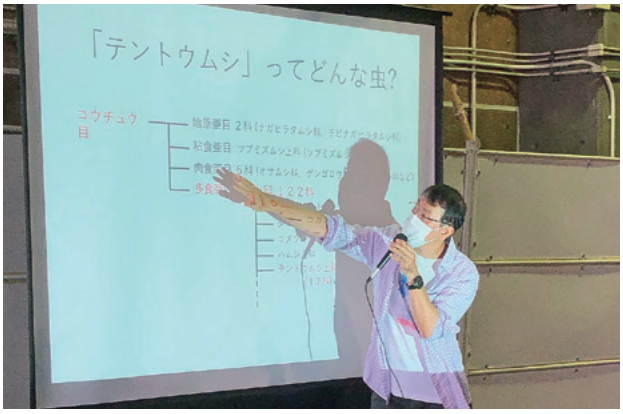


図5　講習会の様子

(2) 調査当日

【午前】

・各調査地で参加者にテントウムシの同定資料を配布(p24～25参照)。
・調査リーダーや連携団体の代表者が調査の目的や方法などについて説明した後、調査を開始。
・調査後、参加者全員で同定資料に基づいて採集したテントウムシの同定を実施。

【午後】

・現地で採集したテントウムシの個体をリーダー・サブリーダーがなごや生物多様性センターに持参。
・連携団体が採集したテントウムシは、代表者が後日なごや生物多様性センターに持参または郵送。

2–6　調査方法

(1) 採集

調査地内を歩き、草地などで草を掃くように捕虫網を左右に振り、葉にとまっているテントウムシをすくいとるスウィーピング、樹木の下で金魚網を構えて捕虫網の柄などで枝や葉を軽く叩いて落ちてきたテントウムシを受け取るビーティング、葉などにとまっているテントウムシを見つけてとるルッキングにより、テントウムシを採集しました。

(2) 同定

採集したテントウムシは1個体ずつ、同定資料に基づき同定を実施し、調査結果記録用紙に種名を記録しました。また、採集した場所の環境（草地、植込み、樹木など）もあわせて記録しました。同定後、リーダーの解説により採集したテントウムシを観察し、それぞれの特徴を確認しました。

図6　採集の様子（荒子川公園）

図7　同定の様子（東山の森 ふれあいの森）

(3) 再同定

採集したテントウムシは、なごや生物多様性センターにおいて講師の戸田氏と岩田氏が再同定し、種を確定しました。

なお、熱田神宮と海上の森（瀬戸市）では採集したテントウムシをその場で放す必要があったため、再同定による種の確定はできませんでした。

(4) 追加調査

なごビオや連携団体が調査した地点に加え、調査地点が少ない名古屋市西部地域や多くの種が採集できそうな地点を中心に、講師またはセンター職員により追加調査を行いました。

(5) 補足調査

なごビオや連携団体の調査地点において、必要に応じて講師などにより補足調査を行いました。

3. 調査結果と考察

3−1　調査対象

今回の調査では種を限らず、すべてのテントウムシを調査対象としました。

テントウムシは体長2mm以下の小型な種が多く、調査する現地でテントウムシかどうか判別することが難しい場合があるため、テントウムシの可能性がある小さくて丸い虫をすべて採集しました。

3−2　調査方法と生息環境の分類

昆虫の調査では、調査者の熟練度で採集結果が左右されます。そのため、事前に各調査地点のリーダーに対し、スウィーピング、ビーティング、ルッキングなどの実技を含めた講習を行いました。講習ではテントウムシの小ささも確認しました。

今回の調査では、テントウムシの採集地点を表2の6種類の環境に分けて記録しました。

図8　スウィーピング

図9　ビーティング

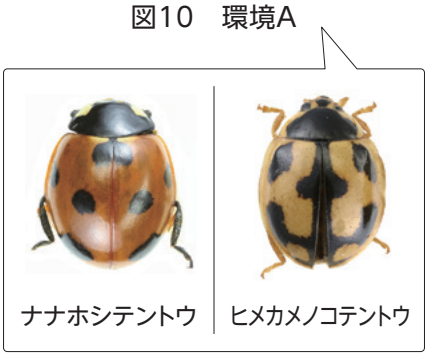
表2　生息環境の区分

区分	生息環境	区分	生息環境
環境A	草地・荒れ地	環境D	樹木(幹)
環境B	植え込み・生け垣	環境E	水辺(葦原など)
環境C	樹木(枝先・葉)	環境F	その他

図10　環境A

図11　環境B

図12　環境C



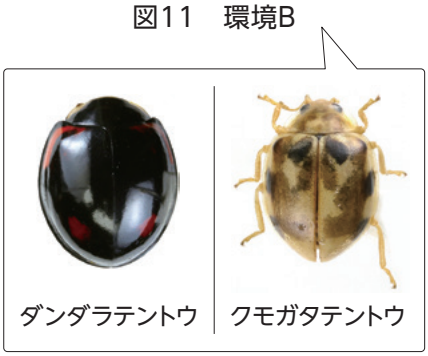


図13　各環境でよく見られるテントウムシ

3–3–1　調査結果

テントウムシは一般になじみのある昆虫ですが、図19のように実はとても小さい種類が多く、調査の進んでいないグループもあります。

今回の調査で採集した総数は2,050個体でした。再同定で種を確定したところ、テントウムシ科の昆虫は1,676個体で42種でした。その内訳は表3のとおりです。

今回の調査における調査地点別の結果はp10～12の表4のとおりでした。なお、熱田神宮及び海上の森（瀬戸市）ではそれぞれ5個体と1個体のテントウムシが確認されましたが、再同定による種の確定ができませんでしたので、集計には含めておりません。

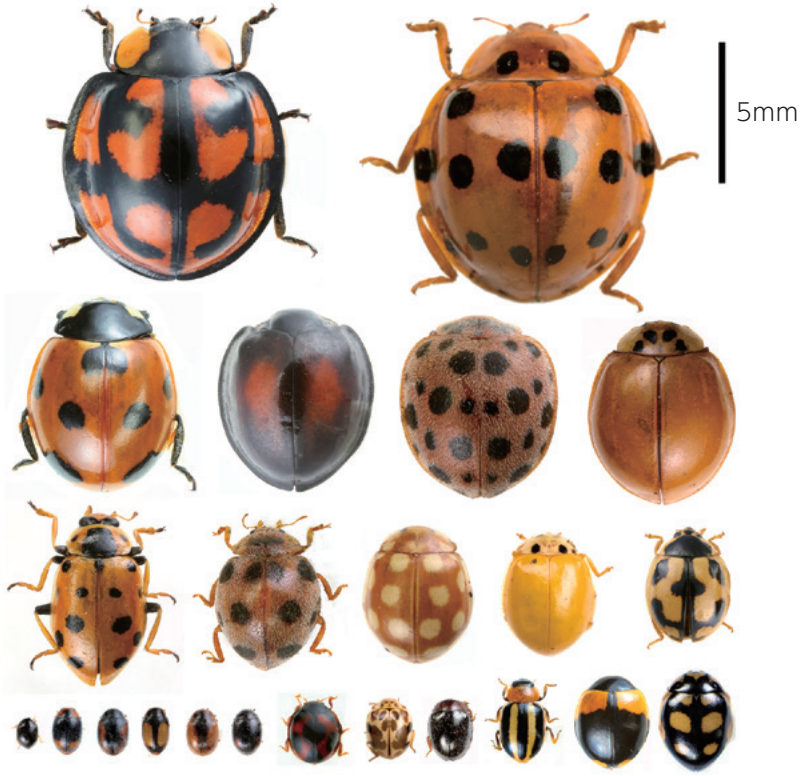


図14　テントウムシの大きさの比較

表3　調査結果（個体数順）

種　名	個体数
ナナホシテントウ	260
キイロテントウ	168
クモガタテントウ	165
クロツヤテントウ	144
ヒメカメノコテントウ	131
ダンダラテントウ	128
ナミテントウ	128
クロヘリヒメテントウ	118
モンクチビルテントウ	94
ハダニクロヒメテントウ	63
コクロヒメテントウ	52
アカホシテントウ	51
ムーアシロホシテントウ	51
ツシマクロヒメテントウ*	37
オオタツマアカヒメテントウ	10
ハレヤヒメテントウ	9
ベダリアテントウ	9
セスジヒメテントウ	7
ニセツマアカヒメテントウ*	6
フタホシテントウ	6
シロジュウゴホシテントウ	4

種　名	個体数
ババヒメテントウ	4
シセンクロテントウ	3
ジュウサンホシテントウ	3
ヒメアカホシテントウ	3
シロジュウシホシテントウ	2
ツマアカオオヒメテントウ	2
ニジュウヤホシテントウ	2
ムネハラアカクロテントウ*	2
ヨツボシテントウ	2
アカイロテントウ	1
オトヒメテントウ	1
クロスジヒメテントウ	1
シコクフタホシヒメテントウ	1
ツシママダラテントウ	1
トホシテントウ	1
ベニヘリテントウ	1
マクガタテントウ	1
ミスジキイロテントウ	1
ムツキボシテントウ	1
ムツボシテントウ	1
ヨツモンヒメテントウ	1

名古屋市初記録（*は愛知県初記録）
赤字　外来種

表4　地点別調査結果一覧

団体	なごビオ																										
区・市名	千種							東			北		西	中村	中	昭和		瑞穂	熱田		中川	港			南	
地点No.	1	2	3	4	5	7	8	10	11	12	13A	13B	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
調査地名 / 種名	茶屋ケ坂公園	千種公園	東山の森(へいわの森)	東山の森(くらしの森)	東山の森(ふれあいの森)	東山の森(うるおいの森)	城山八幡宮	矢田川橋緑地	千代田橋緑地	徳川園	名城公園	名城公園	庄内緑地	大正橋緑地	久屋大通庭園	鶴舞公園	興正寺公園	東山荘公園	神宮東公園	熱田神宮	荒子公園	戸田川緑地	荒子川公園	稲永公園	呼続公園(南部)	呼続公園(北部)
アカイロテントウ																										
アカホシテントウ	2	24									1	14			1				1				1			
オオタツマアカヒメテントウ																		1				1				1
オトヒメテントウ																			1							
キイロテントウ　基亜種	1		2	2	2			12	1		4		3	1							2	1		2	4	
クモガタテントウ		2	2		1			13	3	7	2		3	1							9	2		7	11	6
クロスジヒメテントウ																										
クロツヤテントウ	5	8	1	1	1					4				9	1				20				1			9
クロヘリヒメテントウ	1	1	3	1				2	1			11							1		1	4	2	3		9
コクロヒメテントウ		2		3							3							3	1				1			
シコクフタホシヒメテントウ																										
シセンクロテントウ																										
ジュウサンホシテントウ																										
シロジュウゴホシテントウ																										
シロジュウシホシテントウ																										
セスジヒメテントウ				1																						
ダンダラテントウ	1	1		1					1	3					2				1		1	2	7		1	1
ツシマクロヒメテントウ*				1				1	3		1	1		2									2			
ツシママダラテントウ																										
ツマアカオオヒメテントウ																										
トホシテントウ																										
ナナホシテントウ			17	4	6	1	2	34	3			1	4	1								1		37		
ナミテントウ	1	3	3	2					1		5	1	1	5								1				
ニジュウヤホシテントウ																										
ニセツマアカヒメテントウ*																										1
ハダニクロヒメテントウ								2	2	2	2		1			1					2	1				
ババヒメテントウ														1												
ハレヤヒメテントウ	1			1							2															
ヒメアカホシテントウ																										
ヒメカメノコテントウ	3		2	6	1	1			1			1	3									3	1	5	1	
フタホシテントウ																										
ベダリアテントウ	3	1										1														
ベニヘリテントウ																										
マクガタテントウ																										
ミスジキイロテントウ																										
ムーアシロホシテントウ			1									2				1							1			
ムツキボシテントウ																										
ムツボシテントウ																										
ムネハラアカクロテントウ*																										
モンクチビルテントウ		1	1	11				3	2		2			2					1				2	4		1
ヨツボシテントウ																										
ヨツモンヒメテントウ																										
確認種数	9	9	9	12	5	2	1	7	10	4	9	8	6	8	3	2	0	2	7	0	5	9	9	6	4	7
個体数	18	43	32	34	11	2	2	67	18	16	22	32	15	22	4	2	0	4	26	0	15	16	18	58	17	28

名古屋市初記録（*は愛知県初記録）
赤字　外来種
再同定で種の確定ができなかった地点を除いた集計

なごビオ																						(追加調査)												(補足)
南		守山					緑				名東					天白					中村		中		中川	中	天白			日進	天白		
28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	49	50	51	52	53	54	500	501	502	503 505	504	506		
笠寺公園	大江川緑地	東谷山フルーツパーク	小幡緑地（本園）	小幡緑地（西園）	八竜緑地	翠松園緑地	新海池公園	みどりが丘公園	大高緑地（管理事務所周辺）	大高緑地（花木園周辺）	明徳公園	猪高緑地（塚ノ杁池周辺）	猪高緑地（すり鉢池周辺）	猪高緑地（花木園～親鸞山南）	牧野ヶ池緑地	天白川緑道	相生山緑地	東山公園テニスセンター	天白公園（東部）	荒池緑地	米野公園	名古屋駅	白川公園	松原公園	松葉公園	伏見通	なごや生物多様性センター	高島1丁目	島田緑地	天白川	天白川であい公園	計13地点	
																																	1
1			1																										3				1
				1																													5
		6				2						2				2			1	13	1			6		1			1		5		20
1							2									4					5	2	1	7	1				1		5		26
																																	1
												1			2	2					3			3		1	5		1		17		28
4	9						1										1				1	1			4								21
1			8	4																			2	1	1				1	1			16
				1																									1				
																															1		3
							2																		3								
						19					2				1	7	1				5	4		5	6				3		1		19
		1							2	1						1														4		13
																2																	
5						4		1		3		1				8	11		6														
		16	2	1		5		1								9												1	12		8		15
																1									1								
		2									1			1															12		7		11
										1			1																				
				1																											1		1
		1																															
		6	3	2		2						2		2		4			2	1				1					1		3		6
			1		1					1																							2
																																	4
																																	1
																									1						11		24
																													1				
																																	2
2			5	2				2			3	3	1		3		10			1			2	1					1		2		12
																																	1
																														1			
6	1	6	6	7	1	5	3	3	1	4	3	5	2	2	3	10	4	0	3	3	5	3	3	7	7	2	1	1	12	2	12		23
14	9	32	20	12	1	32	5	4	2	6	6	9	2	3	6	40	23	0	9	15	15	7	5	24	17	2	5	1	38	2	65		233

表4　地点別調査結果一覧（続き）

団体	名理会										ユース	他都市団体									個人調査								合計	
区・市名	千種	北		西	港		南	守山	緑	天白	千種	瀬戸	長久手	豊明	大府	小牧	稲沢	豊田	犬山	尾張旭	春日井	中村	熱田	中川	一宮	天白	瑞穂	瑞穂		
地点No.	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	201	301	302	303	304	305	306	307	308	309	401	402	403	404	405	406	407	408		
調査地名 / 種名	見付小学校	北陵中学校	東志賀公園	南押切小学校	福田小学校・福田公園	土古公園（川中小学校）	笠寺小学校	西城小学校	鳴海小学校	天白渓下池公園（大坪小学校）	名古屋経済大学市邨高校	海上の森	モリコロパーク	二村山	あいち健康の森公園	尾張広域緑道	サリオパーク祖父江	豊田市自然観察の森	犬山里山学センター	名産大近くの寺田の里山	名城大付属農場	稲葉地公園	白鳥公園	庄内川河川敷	木曽川緑地公園	高島公園	瑞穂グラウンド	瑞穂公園	確認地点数	個体数
アカイロテントウ																													1	1
アカホシテントウ																	1												10	51
オオタツマアカヒメテントウ													1																6	10
オトヒメテントウ																													1	1
キイロテントウ　基亜種	9							17	21		4						8						5	3	2			2	37	168
クモガタテントウ				3	1			7			4				1	1					1		14	3	4			2	36	165
クロスジヒメテントウ																													1	1
クロツヤテントウ								11	1		7													2					30	144
クロヘリヒメテントウ					1			2							1		1				12	7	2	2	6	2			31	118
コクロヒメテントウ											1														2			1	21	52
シコクフタホシヒメテントウ																	1												1	1
シセンクロテントウ																												1	3	3
ジュウサンホシテントウ										2												1							2	3
シロジュウゴホシテントウ																													3	4
シロジュウシホシテントウ																									2				1	2
セスジヒメテントウ															1														4	7
ダンダラテントウ	4	1	1		1			7													4	1	7			3	3	1	36	128
ツシマクロヒメテントウ*														1						1		1		1					16	37
ツシママダラテントウ					1																								1	1
ツマアカオオヒメテントウ																													1	2
トホシテントウ																									1				1	1
ナナホシテントウ	3				2			5	32	11	3		2		1		2		4		2	34	1	3	2	3			36	260
ナミテントウ	8			1				6					1			1	10		1						3	1	2	1	32	128
ニジュウヤホシテントウ																													2	2
ニセツマアカヒメテントウ*															4										1				3	6
ハダニクロヒメテントウ								6								2									4	4			22	63
ババヒメテントウ																								1					4	4
ハレヤヒメテントウ																									2				7	9
ヒメアカホシテントウ								1																		1			3	3
ヒメカメノコテントウ	1							5		9	1		1	2	1		2	7	1		17	4		12	1	4			40	131
フタホシテントウ																	1												5	6
ベダリアテントウ																													5	9
ベニヘリテントウ															1														1	1
マクガタテントウ								1																					1	1
ミスジキイロテントウ																													1	1
ムーアシロホシテントウ															1	1	3							2	1			2	13	51
ムツキボシテントウ																													1	1
ムツボシテントウ																									1				1	1
ムネハラアカクロテントウ*																													1	2
モンクチビルテントウ								1			1			2	1				1					1	3	2		2	37	94
ヨツボシテントウ														1															2	2
ヨツモンヒメテントウ																													1	1
確認種数	5	1	1	2	5	0	0	12	3	3	7	0	4	4	9	4	9	1	4	1	5	6	5	10	15	8	2	8		
個体数	25	1	1	4	6	0	0	69	54	22	21	0	5	6	12	5	29	7	7	1	36	48	29	30	35	20	5	12		1,676

名古屋市初記録（*は愛知県初記録）
赤字　外来種
再同定で種の確定ができなかった地点を除いた集計

現在までに名古屋市内で記録されている種は41種ですが、今回調査した市内の73地点では1,528個体、36種が見つかりました。この中で外来種5種を含め13種が名古屋市で初めて見つかった種でした。過去の文献記録には誤同定も含まれると思われますので一概には言えませんが、名古屋市のテントウムシ科は、あわせて54種が確認されたことになり、多様性の把握において大きな前進が見られました。

また、市外の調査地点 12地点からは、148個体、26種が見つかりました。このうち図15の6種は、名古屋市内からは見つかりませんでした。市内及び市外で採集されたテントウムシは図16のとおりです。

図15　市外の調査地点でのみ確認された種

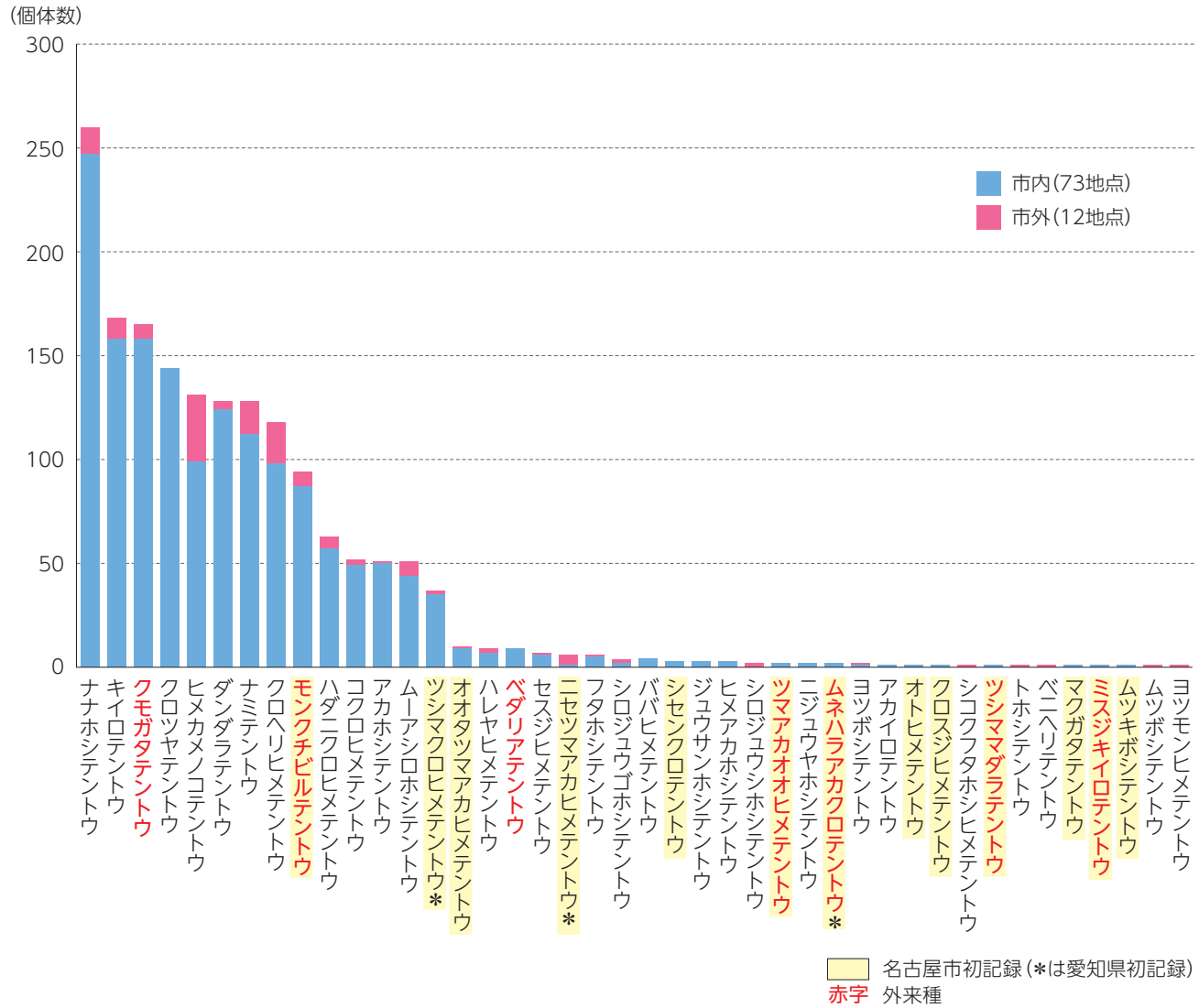


図16　調査結果一覧(市内外)

今回の調査では、テントウムシの可能性のあるものも同時に採集しました。これらの総数2,050個体のうち374個体（全体の18.2%）は植物の種子、昆虫類の糞、ダニ類、カメムシの幼虫やハムシ科のコウチュウ類などで、判別のつかない幼虫も含まれていました。中でもカメムシ目の幼虫が33.2%、ハムシ科が21.9%で、この二つで半数を超えていました。

名古屋市内に分布している外来種（国内由来の外来種を含む）のテントウムシは、クモガタテントウとベダリアテントウが従来から知られていましたが、ツシママダラテントウ、ツマアカオオヒメテントウ、ミスジキイロテントウ、ムネハラアカクロテントウ、モンクチビルテントウの5種が新たに採集され、計7種が生息していることを確認しました。

在来種のテントウムシは多くの種が2〜4種類の環境に生息しているのに対して、外来種のモンクチビルテントウは環境D・Eでの確認数は少ないものの、5種類の環境で生息しています。在来種と餌資源の競合もある中で、より多様な環境で生息して分布を拡大していることが推察されます。

3−3−2　生息環境別の分布

今回の調査で50個体以上見つかったのは13種で、その個体数の合計は採集したテントウムシ全体の92.8%を占めました。その種を生息環境別に比べてみると図17のとおりです。これらの生息環境では樹木の枝先（環境C）が最多で、次に草地・荒れ地（環境A）に多く見られ、この2つで全体の82.6%を占めました。また、樹木の幹（環境D）や水辺（環境E）に棲むテントウムシ類はあまり見つかりませんでした。

テントウムシが採集された82地点の中では、ウドンコ病菌などを食べるキイロテントウが37地点、クモガタテントウが36地点で見つかり、肉食性のヒメカメノコテントウの40地点、ナナホシテントウとダンダラテントウの36地点と並び、多くの地点で採集されました。

テントウムシは特定の種を除き、そのほとんどが多くの種類のアブラムシを捕食することが分かっており、エサが原因で生息環境が偏るのではなく、環境とエサの組み合わせを好んで生息します。

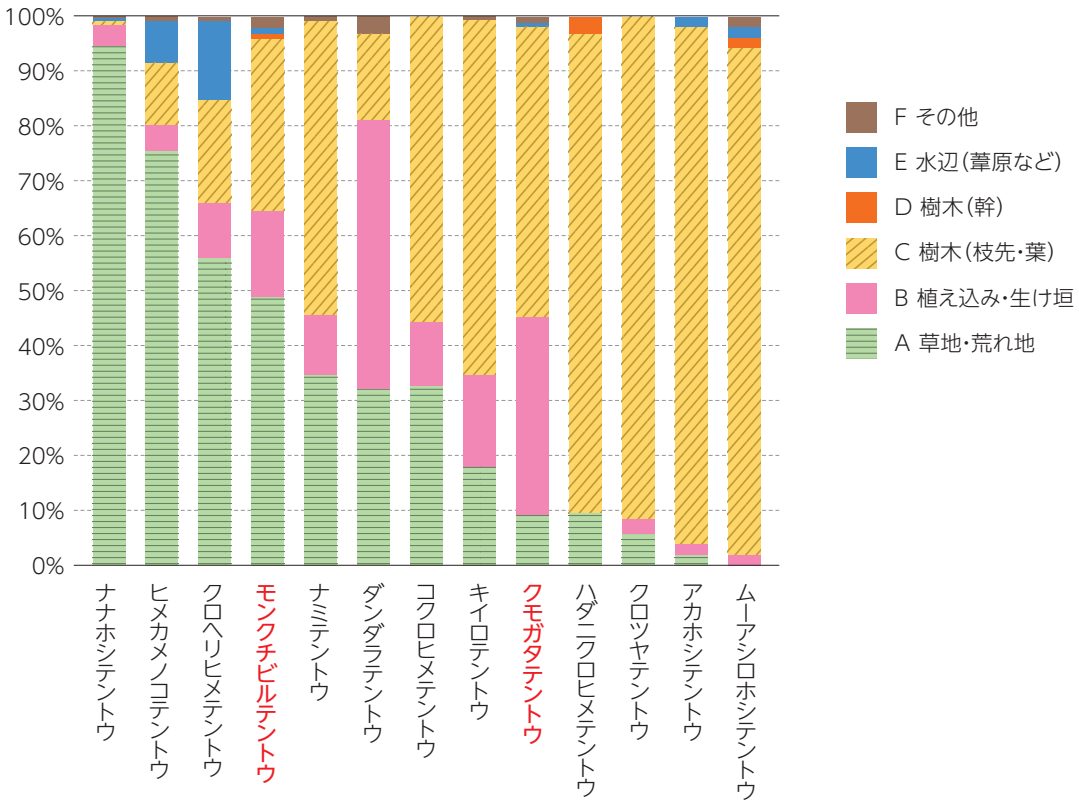


図17　生息環境別の分布

樹の幹（環境D）や水辺（環境E）に棲むテントウムシ類が少なかった理由として、樹の幹ではケヤキやヤナギなどの樹の幹の隙間を、細かく丹念に探さねばならず、採集には熟練度が必要であったと考えられます。

また、水辺については、調査地点自体が公園や学校であり、池や河川の周囲での調査が少なかったことが理由と考えられます。

これらの13種を図17のグラフで見ると、ナナホシテントウは圧倒的に草地に多いことが分かります。また、ナミテントウは草地よりも枝先を好み、ダンダラテントウは植え込みに多いことが分かりました。アカホシテントウは普段は幹にいて、タマカイガラムシを食べている種ですが、調査の時期には、まだ枝先の葉裏で夏眠していたようです。

3−3−3　ナミテントウの斑紋型

今回調査したテントウムシの中で、ナミテントウは北海道から南西諸島まで広く分布することが知られており、背面の斑紋には黒地に赤い点のあるものから，紅一色のものまで様々なバリエーションがみられ、一般に北へ行くほど紅型が多くなる傾向が知られています。

今回の調査では、総数128個体のナミテントウが採集されましたので、その斑紋の出現率について解析しました。その結果、表5のように二紋型が82個体で64.1%と一番多く、まだら型は1個体で0.8%でした。斑紋の出現割合は図18のようになります。

表5　ナミテントウの出現率

型	紅型		まだら型	四紋型	二紋型
斑紋					
個体数	24		1	21	82
出現率	18.8%		0.8%	16.4%	64.1%

この結果を、過去に地理的変異を調べられたp16の図19と比較すると、近隣の大阪あたりの出現率とよく似ていました。

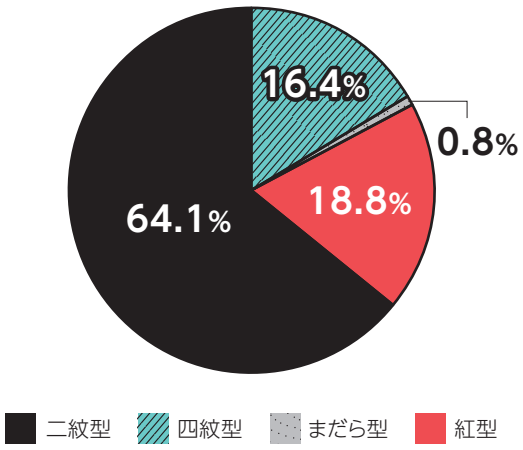
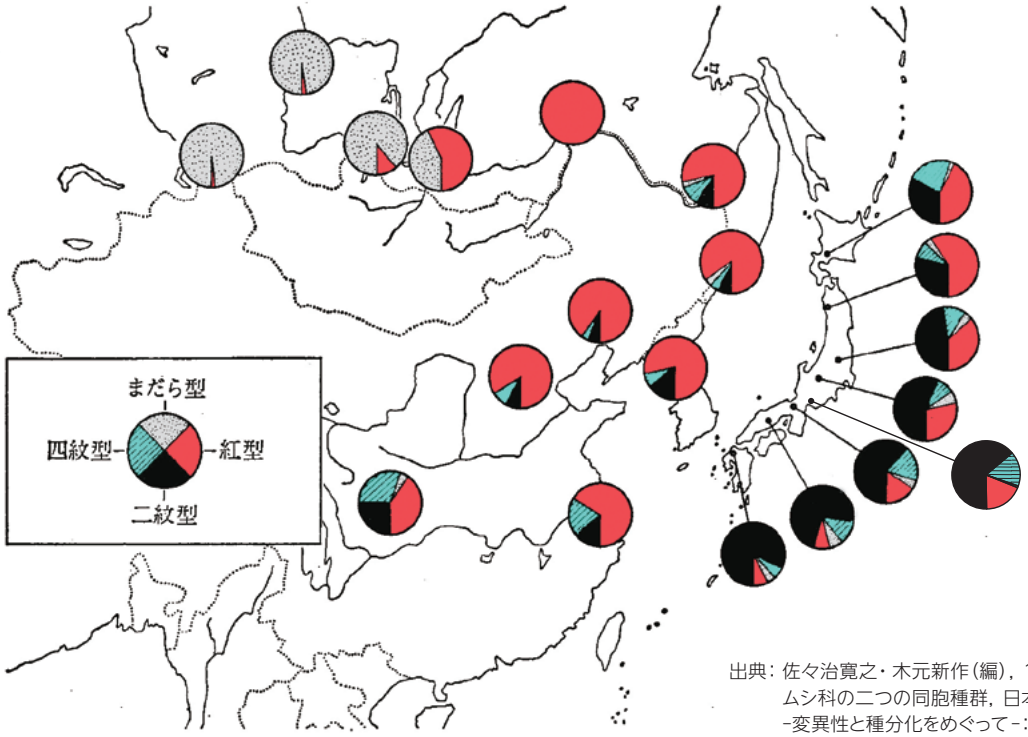


図18　ナミテントウの斑紋出現比較



出典：佐々治寛之・木元新作(編)，1986．テントウムシ科の二つの同胞種群，日本の昆虫地理学 -変異性と種分化をめぐって-：164-174)

図19　ナミテントウの分布

コラム

ナミテントウとクリサキテントウ

ナミテントウ　クリサキテントウ

ナミテントウは、アジア北～中部と南西諸島を含む日本列島と近隣島嶼に広く分布しています。基本的にアブラムシ類を食べ、集団で越冬することもよく知られています。その斑紋は遺伝的にいくつもの型があり、二紋型からまだら型や無紋の紅型まで様々な型が見られます。また、それぞれの型の出現率は、地域によって違うことも、調べるには面白い材料です。

さて、この斑紋のバリエーションを調べていると、愛知県豊田市猿投町のアカマツの集団が、他のコムギや果樹園の集団に比べて、まだら型と四紋型が著しく多くいて、周りの集団とはかなり違うことが分かりました。その後、この「離れ島の謎」は調査や実験が行われ、マツ(クロマツ、アカマツ)にしかいない集団と、ヨモギやコムギなど様々な植物にいる集団に分かれ、成虫の斑紋では見分けることができませんが、幼虫の形態(色や形)で明らかに区別ができるという事が分かりました。そしてこのマツにいる集団は、実は別種であることが交配実験によって確認され、以前はナミテントウと同じ種だろうと考えられていたものがクリサキテントウだという事が分かりました。

テントウムシ類は、他の植物食昆虫のように植物を厳密に選んで生息しているわけではありません。マツだけに生息するクリサキテントウは、今回の調査では見つかりませんでしたが、とても興味深いテントウムシです。

(参考文献) 駒井卓・千野光茂・星野安咨．1956．ナミテントウの集団遺伝学，pp. 45-60. 集団遺伝学，培風館，東京．
佐々治寛之，1998．ナミテントウ種群．テントウムシの自然史，pp. 100-130. 東京大学出版会，東京

3–3–4　種別解説

今回の調査で採集したテントウムシのうち主な18種について解説します。

(1) ナナホシテントウ

学名：*Coccinella septempunctata* (Linnaeus, 1758)
体長：5.0～8.6mm

特徴　橙赤色の地色に7個の黒い星がある。草原で多く見られ、アブラムシ類を捕食する。

36地点で260個体と、今回の調査で最も多くの個体が確認されました。

図20　ナナホシテントウ

(2) キイロテントウ

学名：*Kiiro koebelei koebelei* (Timberlake, 1943)
体長：3.5～5.1mm

特徴　鮮やかな黄色に目のような黒い星があるが、実際の目は頭部の前端にある。葉が白くなるウドンコ病の菌を食べるため、様々な環境で見られる。

37地点で168個体が確認されました。

図21　キイロテントウ

(3) クモガタテントウ

学名：*Psyllobora vigintimaculata* (Say, 1824)
体長：4.0～4.8mm

特徴　薄黄褐色の地色に黒褐色と薄褐色の斑紋があるが、変異も多い。葉が白くなるウドンコ病の菌を食べる。近年分布が広がった外来種。

7種類確認された外来種の1種で、外来種では最も多い165個体が36地点で確認されました。

図22　クモガタテントウ

(4) クロツヤテントウ

学名：*Serangium japonicum* (Chapin, 1940)
体長：1.5～2.0mm

特徴　前胸背板には長毛がまばらに生えるが、上翅は生えていない。コナジラミ類を捕食することが知られている。

名古屋市内では30地点で144個体が確認されましたが、市外では確認されませんでした。

図23　クロツヤテントウ

(5) ヒメカメノコテントウ

学名：*Propylea japonica*（Thunberg, 1781）

体長：3.0～4.6mm

特徴　カメの甲羅のような模様が特徴だが、全体が黄色の個体など変異が多い。アブラムシ類を捕食し、植え込みや草地、樹上でも見られる。

40地点で131個体と、今回の調査で最も多くの地点で確認されました。

図24　ヒメカメノコテントウ

(6) ナミテントウ

学名：*Harmonia axyridis*（Pallas, 1773）

体長：4.7～8.2mm

特徴　いろいろなタイプの模様がある（p15参照）。アブラムシ類を捕食し、公園や街路樹のケヤキやコナラ、シャリンバイ、ユキヤナギなどの植え込みに多い。

図25　ナミテントウ

(7) ダンダラテントウ

学名：*Cheilomenes sexmaculata*（Fabricius, 1781）

体長：3.7～6.7mm

特徴　名古屋近隣では、ほぼ黒色で肩に細く赤紋があるタイプが多いが、まれに後方に赤紋があるものも見られる。アブラムシ類を捕食し、公園の樹木や、ツツジの植え込みにも多い。

図26　ダンダラテントウ

(8) クロヘリヒメテントウ

学名：*Scymnus hoffmanni*（Weise, 1879）

体長：1.5～2.3mm

特徴　頭部は橙色、前胸背板は黒色で縁は細く橙色で、上翅は短毛があり、黒色で大きな赤紋があるが、斑紋の大きさや濃淡にはかなり幅がある。アブラムシ類を捕食し、河川敷や池縁などの水辺に見られる。

図27　クロヘリヒメテントウ

(9) モンクチビルテントウ

学名：*Platynaspidius maculosus*（Weise, 1910）

体長：2.3～3.0mm

特徴　前胸背板は黒く、上翅は橙赤色で黒色の紋が4つあり、会合部の黒色帯は中央で広がる。とても毛深く、他のテントウムシに比べ動きが速い。アブラムシ類を捕食し、林縁の草付きに多く見られる。近年急速に分布が広がっている外来種。

図28　モンクチビルテントウ

7種類確認された外来種の1種で94個体が37地点で確認されました。

(10) ハダニクロヒメテントウ

学名：*Stethorus pusillus*（Herbst, 1797）

体長：1.2～1.5mm

特徴　全体に黒色で、脚は黄色。上翅には短毛が生えている。農業害虫のハダニ類を捕食する。

図29　ハダニクロヒメテントウ

（11）コクロヒメテントウ

学名：*Scymnus posticalis*（Sicard, 1914）

体長：1.9～2.8mm

特徴　全体に黒色で短毛があり、上翅の翅端は橙赤色になる。似た色彩のヒメテントウは種類が多く、同定には注意が必要である。アブラムシ類を捕食し、コナラやサクラなどの枝先によく見つかる。

図30　コクロヒメテントウ

（12）アカホシテントウ

学名：*Chilocorus rubidus*（Hope, 1831）

体長：5.8～7.2mm

特徴　全体にツヤのある黒色で、上翅に大きな1対の赤紋がある。ウメやクリなどに着くタマカイガラムシ類を捕食する。

図31　アカホシテントウ

（13）ムーアシロホシテントウ

学名：*Calvia muiri*（Timberlake, 1943）

体長：4.0～5.7mm

特徴　胸に4紋を持ち、16個の白い星を持つ。樹木の枝先で見つかることが多い。

図32　ムーアシロホシテントウ

（14）ニジュウヤホシテントウ

学名：*Henosepilachna vigintioctopunctata*（Fabricius, 1775）

体長：5.3～6.8mm

特徴　黒紋が28個あり、全体に短毛が生えている。ナス科の植物を食べる草食性で、その食痕は網目状になる。

松葉公園（中川区）及び天白川緑道（天白区）の2地点のみで1個体ずつが確認されました。

図33　ニジュウヤホシテントウ

（15）ベダリアテントウ

学名：*Rodolia cardinalis*（Mulsant, 1850）

体長：3.3～3.8mm

特徴　赤地に湾曲した2対の黒紋があるが、しばしば繋がる。柑橘類に壊滅的な被害をもたらすイセリアカイガラムシの天敵として、1911年に日本に導入され定着した外来種。

図34　ベダリアテントウ

コラム

ベダリアテントウ

ベダリアテントウは、オーストラリア原産のテントウムシで、人間がとても恩恵を受けている昆虫の一つです。そのエサはイセリアカイガラムシというカメムシ目の昆虫で、やはりオーストラリア原産で、柑橘類（ミカンなど）の栽培における農業害虫として、世界中で甚大な被害を与えたことで知られます。実はこのカイガラムシは、ミカンだけではなく300種類ほどの色々な植物につくのでとてもやっかいな害虫です。去年、市内の戸田川緑地では大発生していました。

1868年のことです。オーストラリアからアメリカのカリフォルニア州へ、このイセリアカイガラムシが侵入しました。当時侵入したカイガラムシ数種の中では、この種が最も厄介でカリフォルニア州のミカン栽培は、壊滅的な打撃を受けてしまいました。カイガラムシ類は、貝の様に体にまとったロウ状物質で保護されているため、農薬もなかなか効きません。アメリカ政府は困って、昆虫学者に命じて原産地のオーストラリアで、このカイガラムシの「天敵」を探させます。そして見つかったのがベダリアテントウで、これをアメリカに持ち込んで放したところ、イセリアカイガラムシの被害はなくなりました。

このカイガラムシが日本に入ってくるのはその約50年後、今から110年ほど前の1910年前後に、苗木について侵入したとされています。もちろん、被害が広がりましたが、ベダリアテントウを先に導入していた台湾から持ってきて成果をあげました。この様に農薬を使わず天敵を利用する方法を「生物農薬」や「生物的防除」といいます。

（参考文献）安松京三，1970．天敵 生物防御へのアプローチ，pp. 75-86．日本放送出版協会，東京．

※生物的防除の成功例の紹介であり、外来生物の導入を推奨する意図ではありません。生物農薬の使用は、農薬取締法により農林水産省が許可したものに限られています。

(16) ジュウサンホシテントウ

学名：*Hippodamia tredecimpunctata* (Linnaeus, 1758)

体長：5.6～6.2mm

特徴　縦長のテントウムシで、黄橙色の地色に黒色の紋がある。河川敷や湿地環境で見られ、ヨシに着くモモコフキアブラムシなどを捕食する。

稲葉地公園（中村区）及び天白渓下池公園（天白区）の2地点のみで計3個体が確認されました。

図35　ジュウサンホシテントウ

(17) ハレヤヒメテントウ

学名：*Pseudoscymnus hareja* (Weise, 1879)

体長：1.9～2.5mm

特徴　前胸背板は橙色。上翅は短毛があり、中央にある1対の紋と、翅端部も橙色になる。カイガラムシ類を捕食する。

図36　ハレヤヒメテントウ

(18) ベニヘリテントウ

学名：*Rodolia limbata* (Motschulsky, 1866)

体長：3.9～5.4mm

特徴　黒色に赤い縁どりで、全体に短毛が生えている。マテバシイやアラカシなどの樹木でよく見られ、ワラジカイガラムシ類を捕食する。

あいち健康の森公園（大府市）のみで1個体が確認されました。

図37　ベニヘリテントウ

3−4　テントウムシの生息環境の保全

今回の調査結果から、テントウムシは種によって草地、樹木、植え込み、水辺など様々な環境に生息していることが明らかになりましたので、その生息環境の保全について考えてみます。

(1) トレイルの整備

大阪市住之江区の府営住之江公園では、公園の一角を「バッタトレイル」として、図38のように看板を設置してバッタやその他の虫の観察場所にしています。ここでは、草刈りを行わず、甲虫類が好む朽木なども設置してあります。

このようなエリアは、生きものの保全につながるとともに、市民に対して生物多様性に関する普及啓発にも効果的と思われます。

図38　住之江公園（大阪市）

(2) 越冬・越夏場所の保全

テントウムシは成虫で越冬する種が多いですが、成虫で越夏する種も少なくありません。

越冬場所としては、特にカシ類やツバキのような常緑広葉樹の葉が重なった間（図39）や巻いた葉の中（図40）で越冬することが多いほか、種によってはケヤキなどの剥がれやすい樹皮の下でも越冬します。越夏でも越冬と同様にこうした葉が利用されます。ナナホシテントウはススキなどのイネ科草本で越夏します。

テントウムシは、多くの種が土中で卵で越冬するバッタや、土中で幼虫期を過ごすセミなどと異なり、越冬・越夏の場所として樹木の枝や葉が重要で、こうした植物の保全が重要になります。

図39　重なった葉（ムーアシロホシテントウ）

図40　巻いた葉（ナミテントウ）

一斉調査の結果を活用し、公園管理者や行政との連携を図りながら、今後はこういう取り組みを考えていくこともできるかもしれません。

4. 同定資料（テントウムシの見分け方）

大阪市立自然史博物館 ミニガイドNo.16『大阪のテントウムシ』を改変

1 大きさは?

- 1cm以上（次の2種）　→②へ
- 3mm～1cm未満　→③へ
- ● 3mm以下
  この同定資料には載せていません。

2

ハラグロオオテントウ

カメノコテントウ

3 変わった模様をしている

ヒメカメノコテントウ

アミダテントウ

ナミテントウ

以上のような模様ではない④へ

4 星がある?

上翅に星がある

上翅に星がまったくない（無地、スジなど）

⑤へ　⑨へ

5 上翅に星のあるテントウムシ

黒地に赤やオレンジの星があるもの

赤やオレンジ色、黄土色の地に黒の星があるもの（黒星に白の輪状紋をふくむ）

茶色の地に白の星があるもの

白地に黒や茶色の星がたくさん（およそ3mmで小さい）

クモガタテントウ

⑥へ　⑦へ　⑧へ

6 黒地に赤やオレンジの星があるもの

2星

ダンダラテントウ

ヒメアカホシテントウ

ヒメカメノコテントウ

アカホシテントウ

ナミテントウ

4星

マクガタテントウ

ダンダラテントウ

ナミテントウ

3星

ナミテントウ

6星

ウスキホシテントウ

ムツキボシテントウ

ナミテントウ

それ以上

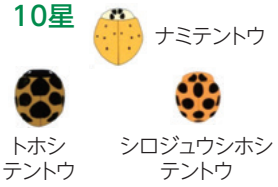
ナミテントウ

シロジュウシホシテントウ

7 赤、オレンジ、褐色の地に黒の星があるもの

2星

7星

10星


17星

18星

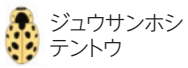
19星

4星

11星

12星

6星

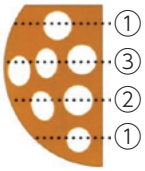
13星


14星

28星

8 白星のテントウムシの見分け方

上翅(片側だけ)の星の並び方を見て下のように数を数えてみる



②-②-②-①

②-②-①

①-③-②-①

①-②-②-①

9 上翅に星のないテントウムシ

真っ黒	全体が黄色、オレンジないし赤色	真ん中にスジがある	3本のスジがある

その他の模様 ⑩へ

10 その他の模様

全て「ナミテントウ」というたった1種類のテントウムシです。

5. 調査後のアンケート

5−1　調査に対する満足度

リーダー等を除く参加者に対して、調査後にアンケートへの回答をお願いしました。アンケートを実施しなかった名理会の参加者を除く459人の参加者から365の回答を得ました。

調査に対して70%の人が「楽しかった」と答え、「やや楽しかった」を含めると、ほぼすべての参加者にテントウムシの採集を楽しんでいただけたようです。なごビオの調査地点では「楽しかった」人が75%でした。

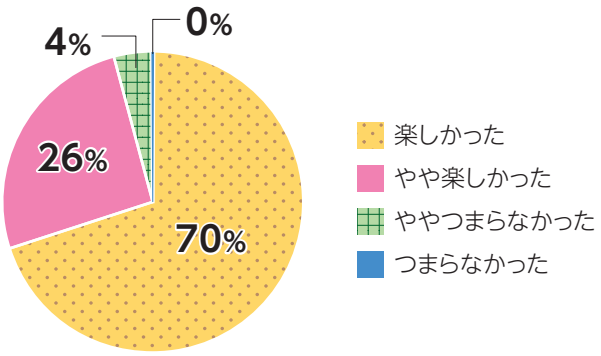


図41　アンケート（満足度）

5−2　参加者について

なごビオの調査地点で参加者の年代をお尋ねしたところ、約半数が10代で、そのほとんどが小学生でした。次いで、その子たちの保護者である30代と40代が多く、昨年のバッタに続いて親子での参加が多く見られました。連携団体の名理会やユースが実施した調査地点の参加者を含めると、今回は10代の参加者が圧倒的に多かったと言えます。

なごビオの調査地点の参加者を公募方法別に分類すると、広報なごやによる参加者が最多で、知人・友人からとチラシがそれに次ぎます。広く配布された紙媒体による公募が最も有効でした。

参加者からはこの調査を広く広報してほしいというご意見もいただいているため、今後も広報に努めてまいります。

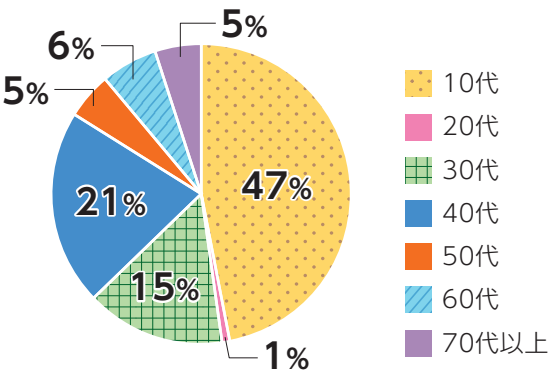


図42　アンケート（参加者年代）

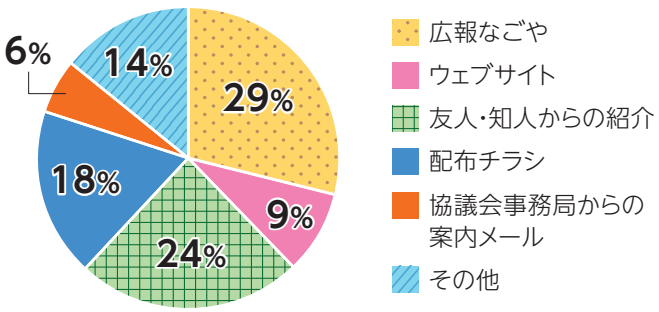


図43　アンケート（公募方法）

5−3　参加者の声　―楽しかったこと、面白かったこと―

アンケートでは、「楽しかったこと・面白かったこと」や「一斉調査についてのご意見・ご感想」を自由に記載していただきました。テントウムシを探して、見つけて、捕って、分類するという作業を純粋に楽しんだという感想を多くいただきました。

- テントウムシを探すところが楽しかった、特に虫網をふるところ
- 普段何気ないときにはよく見るのに、いざ探してみるとなかなか見つからないため熱中した
- 身近にこんなにたくさんのテントウムシがいたなんて驚いた、1匹つかまえるたびに喜びが増した
- 実際に採れてその種類をその場で判別できて面白かった

また、テントウムシの種類が多く、予想外に小さいことなど、色々な知識を得られたという感想も多くいただきました。

- テントウムシに注目したことがなかったのでこんなに種類があるとは思わなかった、勉強になった
- よく見るナミテントウ以外にも様々なテントウムシがいることを知れてよかった
- 今まで思っていたテントウムシの大きさよりも小さい種類があり驚いた
- テントウムシが50種もいて、ほとんどが1～2mm位の小さなものばかりということを初めて知ったのが面白かった
- 見たことない虫が見られワクワクした、先生方に虫の知識をききながら採集でき知見も広がり嬉しかった
- 図鑑でしか見たことのないテントウムシや初めて知ったテントウムシも学べて大変勉強になった

連携団体の参加者からも以下の感想をいただきました。

- 高校生になって草の茂るところに行き網を持って虫を探す機会はなかなかないため、新鮮で楽しかった
- いつタモで虫採りしたのだろうか、小さい頃に戻り夢中で採った、2時間があっという間だった
- 採集をしている際には植物や虫などのたくさんの生き物に触れ合うことができとても楽しかった
- テントウムシを自分でつかまえ観察することがとてもよい機会になったとともに、虫をつかまえることの面白さが分かった
- テントウムシは草食だと思っていたので、肉食のテントウムシやカビを食べるテントウムシもいることを知って勉強になった

一斉調査の内容などに対して、「継続して実施してほしい」「来年も参加したい」「リーダーから学ぶことができた」などのご意見をいただきました。

6. 活動アルバム

千種区 茶屋ケ坂公園

千種区 千種公園

千種区 東山の森（へいわの森）

千種区 東山の森（くらしの森）

千種区 東山の森（ふれあいの森）

千種区 東山の森（うるおいの森）

千種区 城山八幡宮

東区 矢田川橋緑地

東区 千代田橋緑地

東区 徳川園

北区 名城公園

北区 名城公園

西区 庄内緑地

中村区 大正橋緑地

中区 久屋大通庭園

昭和区 興正寺公園

瑞穂区 東山荘公園

昭和区 鶴舞公園

熱田区 神宮東公園

熱田区 熱田神宮

中川区 戸田川緑地

南区 笠寺公園

港区 稲永公園

港区 荒子川公園

南区 呼続公園(北部)

南区 大江川緑地

守山区 東谷山フルーツパーク

南区 呼続公園(南部)

守山区 小幡緑地(本園)

守山区 小幡緑地(西園)

緑区 新海池公園

守山区 八竜緑地

守山区 翠松園緑地

緑区 大高緑地(管理事務所周辺)

緑区 大高緑地(花木園周辺)

名東区 明徳公園

名東区 猪高緑地(塚ノ杁池周辺)

名東区 猪高緑地(すり鉢池周辺)

名東区 猪高緑地(花木園～親鸞山南)

名東区 牧野ヶ池緑地

天白区 天白川緑道（天白橋～寄鷺橋）

天白区 相生山緑地

天白区 東山公園テニスセンター

天白区 天白公園（東部）

天白区 荒池緑地

千種区 見付小学校

港区 福田小学校・福田公園

守山区 西城小学校

西区 南押切小学校

6. 活動アルバム

天白区 天白渓下池公園(大坪小学校5年1組)

天白区 天白渓下池公園(大坪小学校5年2組)

港区 土古公園(川中小学校)

緑区 鳴海小学校

千種区 名古屋経済大学市邨高等学校

豊明市 二村山

小牧市 尾張広域緑道

中川区 庄内川河川敷

一宮市 木曽川緑地公園

犬山市 犬山里山学センター

豊田市 豊田市自然観察の森

稲沢市 サリオパーク祖父江

尾張旭市 名古屋産業大学近くの寺田の里山

春日井市 名城大学農学部付属農場

中村区 稲葉地公園

熱田区 白鳥公園

瑞穂区 瑞穂公園

参加者・参加団体一覧(順不同)

以下の方々にご参加いただきました。

青木　亜津子、青木　僚平、青木　優真、青木　莉愛、浅井　昭枝、浅井　照枝、朝岡　紀匠、朝岡　未悠、朝岡　真由、朝日　一如、阿部　優月、荒谷　典子、安藤　大輔、安藤　大翔、安藤　由依奈、飯森　明日香、池谷　未来、石川　進一郎、石川　登志子、石樽　純子、石黒　鐐三、石野　花奈子、石原　則義、伊藤　康太、伊藤　佑成、伊藤　昌子、伊藤　雅弘、伊藤　和希、伊藤　実佐子、井土　清司、稲垣　麻美、稲垣　さほ、井上　恵介、井上　みつる、井上　御生里、井上　昌次、井上　隼輝、今井　鎮雄、今尾　由美子、岩田　育純、岩田　圭二、岩田　七輝、岩月　優希、上田　清美、上田　雅子、上田　理香、植村　普学、鵜飼　美奈、鵜飼　千智、内田　美穂、宇地原　永吉、宇野　総一、梅村　恵、梅村　和馬、梅本　洋子、大石　里美、大瀧　弦叶、大瀧　花子、大西　崇太、おおにし　あやか、おおにし　そうた、おおにし　ふみと、大野　友豪、大矢　晃、大矢　美紀、大矢　晴仁、大矢　拓歩、大矢　楓華、大矢　康子、大矢　芳樹、小笠原　芳夫、岡島　栄子、岡田　雅子、岡田　美樹、岡本　浩平、岡本　純代、岡本　勇翔、岡本　優汰、小川　貴子、奥平　知果、押谷　則子、尾関　理恵、尾関　理深、尾関　恵遠、尾上　圭、折橋　美希、折橋　想佑、梶田　真衣、梶田　旭陽、樫野　悦子、鹿島　真美、鹿島　聖汰、鹿住　坦、加藤　敦子、加藤　圭吾、加藤　由起、加藤　武彦、加藤　聖子、金谷　賢二、金谷　優太、神谷　祐子、神谷　佳歩、神谷　直宏、神山　良平、神山　真巳、神山　優真、神山　遥香、亀澤　美和子、亀澤　舜、川合　碧馬、川合　晴美、川本　洋敬、川本　竜慈、川本　洸慈、川本　芙友音、キキ・ヌル・アザム・コリル、北川　大慈、北芝　俊介、北芝　佑希子、北芝　玲太、北芝　彩乃、北野　雄志、きたはら　りおと、鬼頭　洋子、日下部　康彦、熊澤　慶伯、熊本　ゆう子、熊本　朱里、熊本　泰士、久米　かずみ、久米　一慶、倉内　忠、倉内　ゆきの、倉内　麻有、栗野　直樹、栗本　瞳、栗本　直康、黒田　覚、黒宮　志穂美、黒宮　幸一郎、黒宮　茂、香高　希美、香高　みつる、香高　大翔、香高　あつき、小汐　晃平、小島　雅孝、小島　香織、小島　瑠璃子、小林　いさお、小林　あやこ、小林　清正、小林　ゆら、駒野　早紀子、駒野　実紗季、金剛　和香、近藤　記巳子、近藤　美里、近藤　統真、近藤　佑季、近藤、壮真、櫻井　玲子、笹野　貴良、笹野　夕紀、笹野　日菜穂、笹野　蒼良、佐藤　春華、佐藤　裕美子、佐橋　祐磨、澤田　宗一郎、渋谷　ともみ、渋谷　たくと、渋谷　みか、シュキナ、白根　文明、杉原　弘一朗、杉原　久美子、杉原　碧音、鈴木　悠、髙木　和彦、高木　信雄、高橋　智子、高橋　季生、瀧川　正子、田京　弘一、田崎　晶、田崎　明子、田中　具子、田中　昌之、田中　実穂、田中　授、田中　凛人、田中　玲伊子、谷　幹雄、田畑　恭子、俵山　友作、俵山　知紗、俵山　航、千葉　糸乃、柘植　実、辻井　奈都子、土川　そうま、鶴田　正治、寺田　よし子、寺部　みゆ紀、寺部　慧路、天満　智憲、東院　崇、東院　もいか、研谷　厚、戸崎　智文、戸田　尚希、冨谷　里子、冨谷　智瑛理、富満　翔、冨安　香織、冨安　菊理、仲井　進、中島　民子、中島　直樹、中島　典子、中島　稜大、長瀬　陽子、中田　謙一、中田　翔太、中田　和香菜、中村　恵美子、長元　楓、西谷　一孝、西谷　一紘、西部　美代子、丹羽　愛子、布目　均、野中　賢輔、野村　和弘、野村　奏太、萩原　正弥、長谷川　航大、長谷川　浩代、服部　晃、服部　光政、花澤　みどり、巾　賢治、馬場　未遥、濱田　翔、伴　知幾、伴　拓哉、半澤　はるか、半澤　悠司、半田　真以、半田　明日菜、半田　大和、東野　あき子、東野　このえ、久田　祥、久田　翔一朗、久村　三重子、平田　魁、平山　希能、廣瀬　章伍、福島　千絵、福田　利夫、藤岡　嶺子、藤木　美保子、藤木　朔、藤木　桃子、藤田　あい、藤田　志門、藤田　隆身、藤巻　一成、藤巻　美紀、藤原　純子、船橋　泰彦、古川　文子、星　克巳、細江　初奈、細川　佑子、細川　奨悟、堀田　恭史、堀　千鶴、堀　桃香、前田　絵美、前田　泰輝、前田　江輝、前野　圭子、前野　朴春、牧野　巨樹、牧野　寛生、松田　泰蔵、松田　大河、松田　清花、松原　裕隆、眞弓　浩二、丸谷　久也、右田　和美、右田　成琉、右田　勇、御厨　彩可、水嶋　千詠、水嶋　笑杜、水嶋　千叶南、水野　匠、見田　光代、見田　輝、道下　祐一郎、道下　かな子、道下　陽大、南山　陽子、南山　莉子、南山　景太、宮野　純一、

ムハマド・ナーファイク・ヒバチュク、毛利　崇、毛利　遥香、毛利　航太朗、森　友美、森　新、森川　初美、安井　敏彦、安井　弘、安井　幹人、安岡　祐輔、柳田　健吉、柳田　光希、柳本　光義、山北　宗輝、山田　祥夫、山田　やえ子、山本　瑛大、山本　加奈子、山本　瑛恵、山本　雅人、山本　佑紀、横井　杏朱、横山　悠理、吉井　碧澄、吉井　佐東子、吉川　奈々子、吉川　巧望、吉川　菜月、吉田　めぐみ、吉田　悠人、吉田　雅樹、吉田　祥子、吉田　一歩、吉野　奈津子、吉野　文太、若松　小弥加、脇田　剛、渡辺　慈子、渡辺　大起

連携団体の調査地点では以下の方々にご参加いただきました。

【名古屋市理科教育研究会】

見付小学校　山田　啓太、3年生81人／**北陵中学校**　宇佐美　宏幸、佐藤　拓、平林　美香、古田　悠騎、特別支援学級6人／**南押切小学校**　石田　智紀／**福田小学校**　澤田　真吾、佐貫　知世、細野　涼加、山内　健吾、5年生102人／**川中小学校**　磯貝　彰宏／**笠寺小学校**　横井　宏明、5年3組28人／**西城小学校**　小林　哲、辻　佳子、児童・保護者68人／**鳴海小学校**　川野　祐二、児童14人／**大坪小学校**　浅野　太介、鈴木　彩香、徳永　祥一、5年生61人

【ユース】

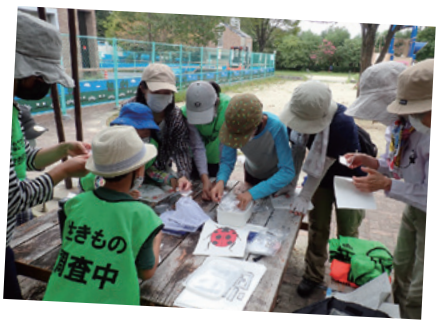
名古屋経済大学市邨高校　佐藤　豊、2年生30人、3年生39人、中学生2人

【他都市団体】

NPO法人 海上の森の会　石川　明博、田中　英嗣、田中　琉月、細川　小百合、馬宮　孝好／**NPO法人 もりの学舎自然学校**　河合　祐子、原田　朝美、水谷　央、守安　悠子／**二村山豊かな里山づくりの会**　浅野　守彦、大島　武幸、大島　初美、戸塚　律子、丹羽　正武、原田　秀子、溝口　さおり、三好　善一、吉安　尚久／**公益財団法人愛知県都市整備協会**　加藤　節雄、高橋　義彦、長谷川　正美、大竹　広幸一家、大武　見栄一家、太田　由佳一家、山本　智子一家、吉田　ビリー一家／**岩間造園㈱及び一般財団法人公園財団**　小田　倫之、加藤　康弘、竹村　薫、辻　泰広、野口　章夫、森川　了平／**公益財団法人日本野鳥の会**　浅井　昭枝、伊藤　準二、大熊　千晶、筧　陽子、高橋　恵子、藤原　純子／**NPO法人 犬山里山学研究所**　高木　和男、高木　加代子、田口　正人、日比野　伸子、平野　恵子、福田　秀雄、山田　和利／**名古屋産業大学長谷川ゼミ**　伊東　蓮、金嶋　彩斗、木村　太郎、桑原　稔、齋藤　孝貴、佐藤　昭文、鈴木　等登、田中　大喜、成瀬　優真、新家　丞二、長谷川　泰洋、別府　尚哉、三谷　拓矢

【個人調査】

石川　拓実、稲垣　羽美、稲熊　大城、鵜飼　普、大石橋　春美、大内　香抄葉、大矢　美紀、桶本　侑加、川浦　光莉、櫻山　光、白岩　一隼、白岩　一寿、白岩　隼空、白岩　紗希子、白岩　紘子、田邊　大佑、本田　洋平、村上　悠、安居　義高、山腰　美帆、山崎　歩乃花、和田　菜花



また、以下の団体にご参加をいただきました。

【なごビオ会員】

相生山緑地自然観察会、愛知守山自然の会、大高緑地湿地の会、雑木林研究会、なごや外来種を考える会、名古屋昆虫同好会、名古屋自然観察会、
名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科附属生物多様性研究センター、
NPO法人 なごや東山の森づくりの会、花水緑の会、名東自然倶楽部、もりづくり会議、野生動物生態研究会、山崎川グリーンマップ

【なごやの森づくりパートナーシップ連絡会会員】

水源の森と八竜湿地を守る会、天白公園整備クラブ、てんぱくプレーパークの会、二ツ池の自然と緑を守る会

【企　　業】

㈱加藤建設、倉内商工㈱、㈱サンゲツ、㈱テクノ中部

【行 政 等】

公益財団法人 名古屋市みどりの協会

調査に参加いただいた市民・団体の皆様、ご協力ありがとうございました。

なごや生きもの一斉調査2021 ～テントウムシ編～ 調査結果報告書

発行：なごビオ（なごや生物多様性保全活動協議会）
（事務局：名古屋市環境局なごや生物多様性センター内）
〒468-0066　名古屋市天白区元八事五丁目230番地　TEL:052-700-7792　FAX:052-839-1695

調査監修・執筆	**戸田尚希**（名城大学昆虫学研究室研究員、名古屋昆虫同好会） **岩田圭二**（名古屋昆虫同好会） **櫻谷保之**（NPO法人 なごや東山の森づくりの会）
編　　集	**なごビオ事務局**

2022年3月発行

本誌掲載内容の無断転載は固くお断りします。